

今後の学校部活動の指導者確保について

－実態調査結果に基づく政策提言決議－



令和 7 年 3 月

尾張旭市議会 未来の部活検討会

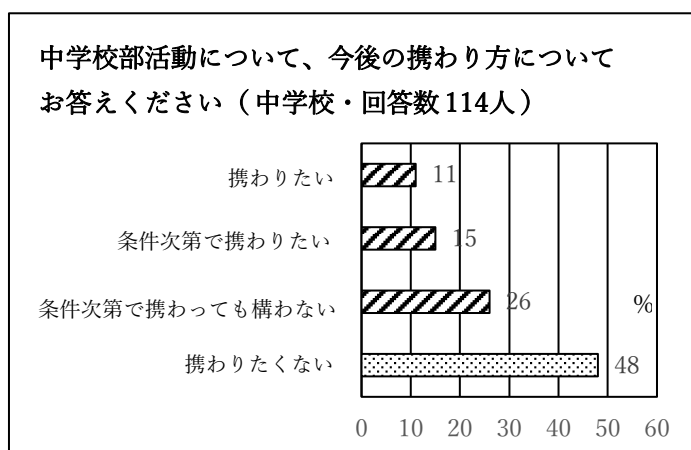
はじめに

教員の働き方改革により、全国的に、部活動の地域移行が進められています。

本市においても、令和4年度に小学校の部活動が廃止され、現在は、中学校の休日の部活動について、地域移行が進められようとしています、指導者不足が問題になっています。

令和4年・5年に実施された小中学校教職員を対象にした調査では、下記のような結果が得られました。

◆中学校の教職員は、52%の教職員が「携わってもよい」と答えています。

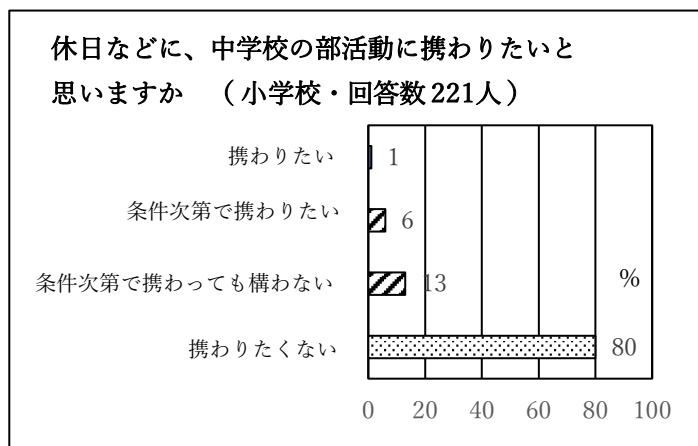


教員の多忙化による影響が強いと考えられますが、11%の教職員が「携わりたい」と回答し、条件次第と回答している教職員を含めると25%以上が、部活動に携わりたいと回答しています。

また「携わっても構わない」という回答が26%で、全部を含めると、半数以上の教職員が部活動に対する想いを持っていることが分かります。

つまり、「部活動に携わりたい」という教職員の想いが伺われます。

◆小学校の教職員は、80%が携わりたくないと回答しています。



しかし、残りの20%は、小学校の教職員でありながら、「条件次第で、中学校の部活動に携わっても構わない」と回答しています。

このことから、中学校では、半数以上の教職員が、条件次第で部活動に携わっても良いと考えていることが分かります。

小学校でも20%の教職員が、条件次第で中学校部活動に携わっても良いと考えています。

よってその条件について調査分析し、「部活動の指導者確保」について、政策提言決議の準備を進めていきます。

目 次

1	調査研究の経過	・ ・ ・ ・	P 1
2	学校教職員への調査方法	・ ・ ・ ・	P 2
3	生徒・保護者への調査方法	・ ・ ・	P 2
4	調査結果の考察（小・中学校教職員）	・	P 3 ～ 5
	労働対価、携わる種目、携わる学校	・	P 3
	複数顧問、活動日、顧問の携わり方	・ ・	P 4
	時間外の部活動に関わる時給、対象	・ ・	P 5
5	調査結果の考察（中学生・保護者）	・ ・	P 6 ～
6	調査結果に基づく政策提言決議	・ ・	P10
7	参考資料		

（部活動地域移行に関するアンケート用紙）…別紙添付

1 調査研究の経過

本検討会では「今後の学校部活動の指導者確保」をテーマとし、政策提言決議に向け、検討会や政策討論、先進的行政への調査活動など、次のように研究活動に取り組んできました。

月 日	活 動	内 容
5 月 1 4 日（火）	第 1 回 検討会	協議体の編成について
6 月 5 日（水）	第 2 回 検討会	政策決議提案に向けての方向性を確認
7 月 1 日（月）	第 3 回 検討会	学校教育課との連携を確認
8 月 5 日（月）	第 4 回 検討会	教職員実態調査結果分析
10 月 11 日（金）	第 5 回 検討会	みらい創造特別委員会の内容確認
11 月 6 日（水）	第 6 回 検討会	生徒用・保護者用アンケートの内容検討
11 月 13 日（水）	第 7 回 検討会	生徒用・保護者用アンケートの配布作業
12 月 19 日（木）	第 8 回 検討会	生徒用・保護者用アンケートの結果分析
1 月 21 日（火）	第 9 回 検討会	政策提言決議（案）の検討
2 月 5 日（水）	第 10 回 検討会	政策提言決議（案）の完成

2 市教育委員会による 学校教職員への調査方法

調査対象 市内小中学校の全教職員（P 3～5）

（正規職員、事務職員、養護教諭、再任用職員、常勤講師、非常勤講師）

調査期間 中学校教職員：令和4年11月2日（水）～15日（火）

小学校教職員：令和5年1月11日（水）～25日（水）

調査方法 質問紙法

回答状況 中学校3校 114人／163人 回答率70%

小学校9校 221人／287人 回答率77%

質問手順 ① 中学校部活動について今後の関わり方について回答する。

② ①で、「携わりたい」「条件次第で携わりたい」

「条件次第で携わっても構わない」と回答した教職員が
条件追加質問に答える方式

3 市議会議員による 生徒・保護者への調査方法

調査対象 市内中学校の生徒・保護者（地域住民の協力者）

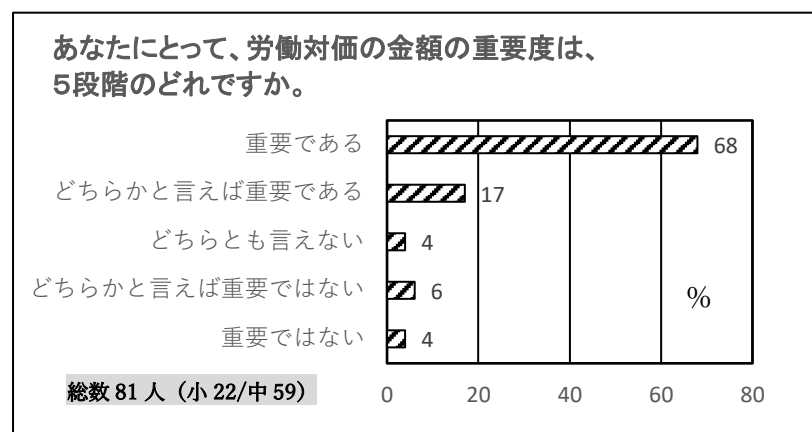
調査期間 令和6年11月14日（木）～12月13日（金）

調査方法 質問紙法

回答状況 中学生109名 保護者98名

4 調査結果の考察（小中学校教職員）

問1 労働対価の金額について

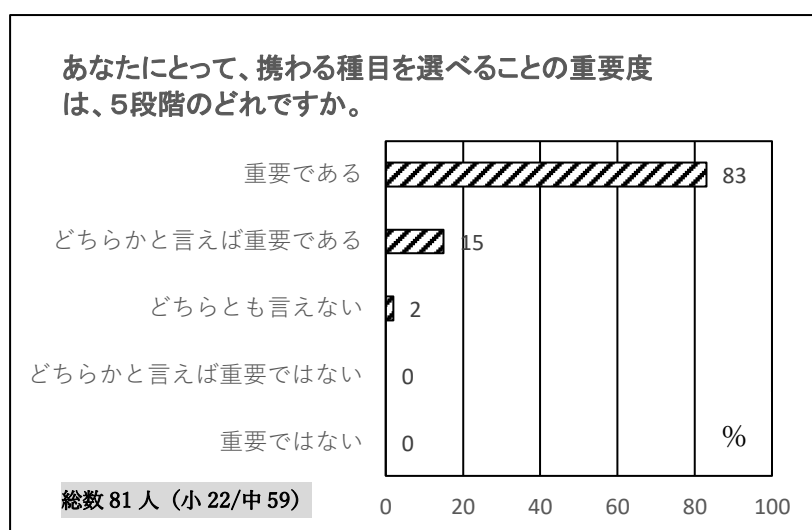


労働対価についての質問です。

「重要である」「どちらかと言えば重要である」を合わせて、80%を超えます。

部活動の指導に関して、教職員も労働対価の必要性を感じていることが分かります。

問2 携わる種目について

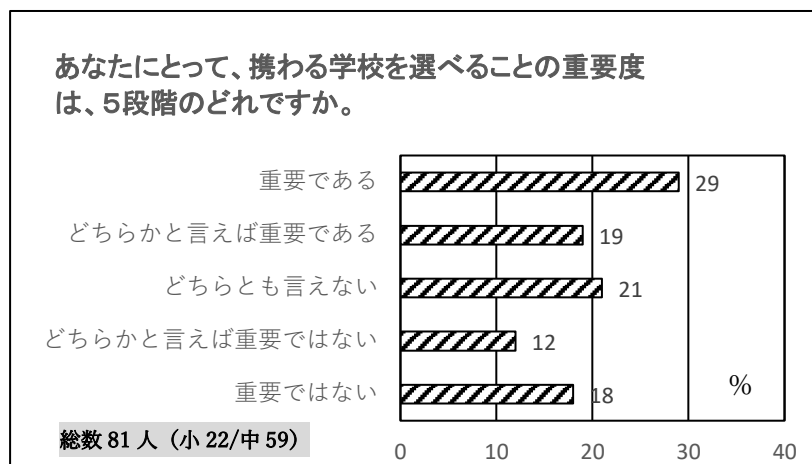


携わる種目を選ぶことについての質問です。

「重要である」「どちらかと言えば重要である」を合わせて、ほぼ100%になります。

現在の部活動顧問は、学校事情により、専門以外の種目について顧問を依頼する場合がありますが、教職員にとっては、自分が選んだ種目に携わりたいと思っていることが分かります。

問3 携わる学校について

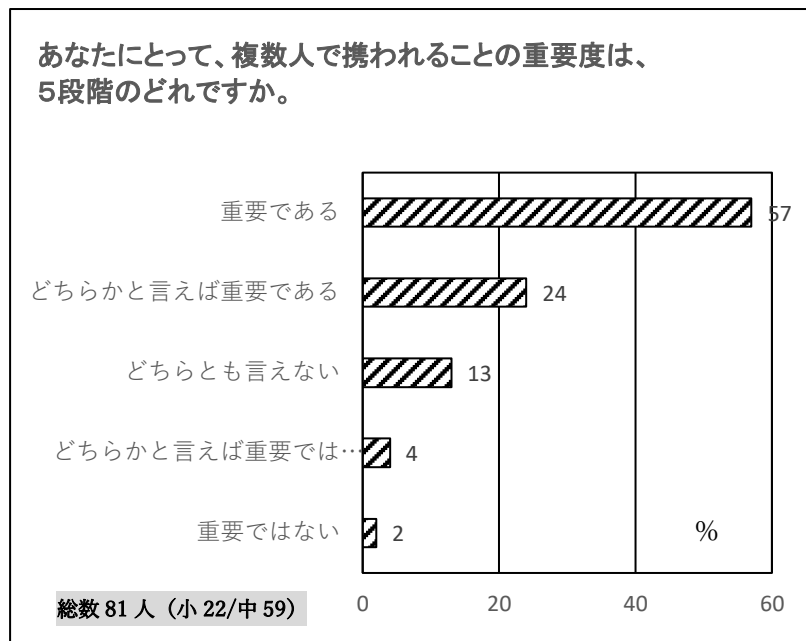


どこの学校で、部活顧問を行うかについての質問です。

教職員には、転任があります。転任した勤務校で、顧問を行うか、前任校で顧問を行うか、教職員にとっては、難しい選択になります。

顧問の想いの違いで回答が多岐に広がっていることが考えられます。

問4 複数顧問について



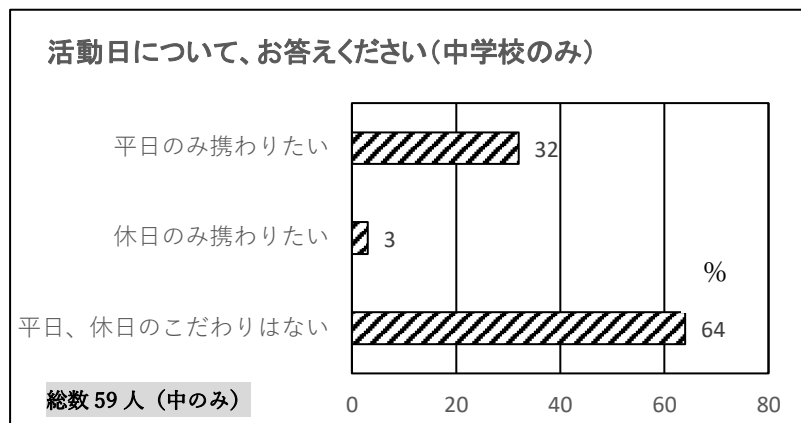
顧問の人数についての質問です。

「重要である」「どちらかと言えば重要である」を合わせると80%を超え、ほとんどの教職員が、複数顧問で携わった方が、指導しやすいと考えています。

これは、校務分掌の仕事や生徒指導などで、部活動指導に行けない場合に、**複数顧問の方が指導しやすいことが考えられます。**

また、複数顧問であれば、休日指導を分担することも考えられます。

問5 活動日について

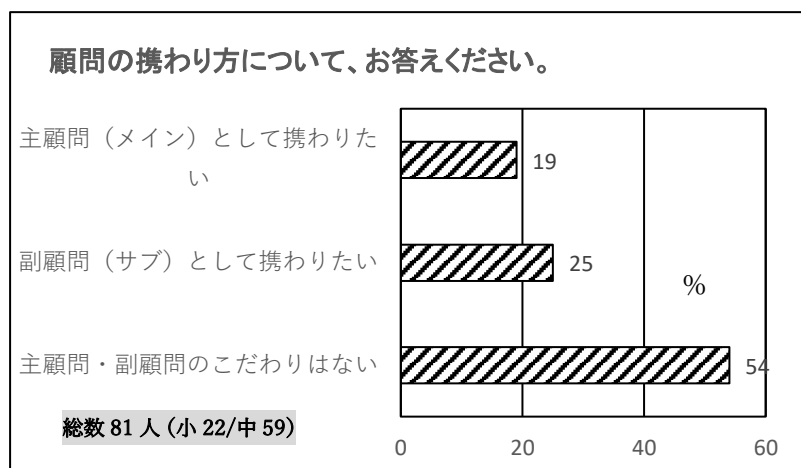


活動日についての質問です。

「平日、休日のこだわりがない」という教職員が64%です。

これは、現在の部活動指導が、休日でも活動していることが多いことを表しており、**教職員の部活動に対する熱心な想いを感じ取ることができます。**

問6 顧問の携わり方について

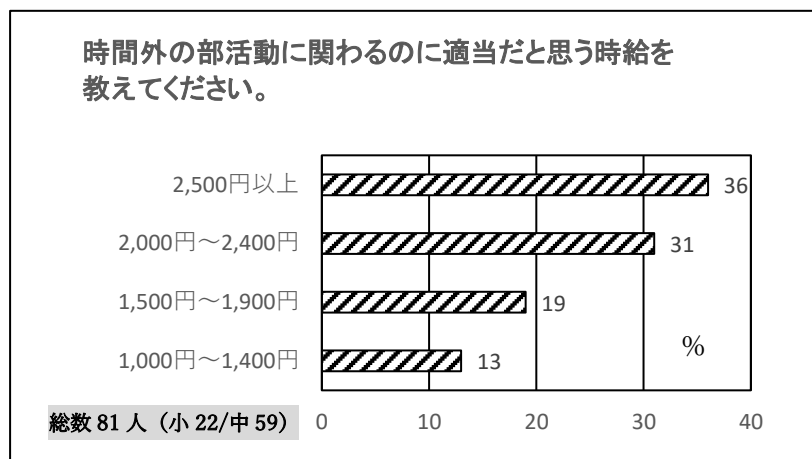


顧問の携わり方についての質問です。

「主顧問・副顧問のこだわりはない」が58%と半数を超えています。

問4で複数顧問を望む割合が多いが、それが主顧問か副顧問かは、あまりこだわりがないことが分かります。

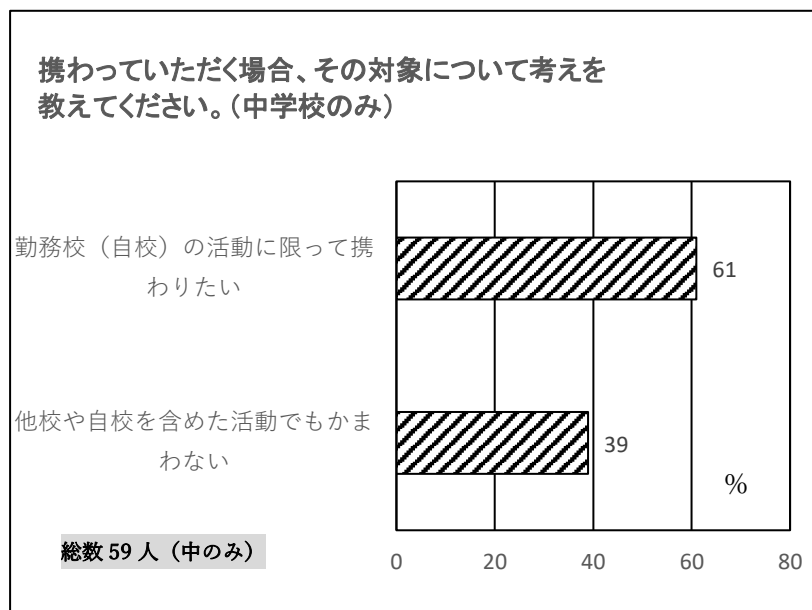
問 7 時間外の部活動に関わる時給について



時給についての質問です。
時給が「2,500 円以上」「2,000 円～2,500 円」を合わせると 60%を超え、**2,000 円以上の時給が適当**と考えていることが分かります。

これは、問 1 の労働対価の問いで「重要である」と答えた教職員の割合と同程度になります。

問 8 対象について



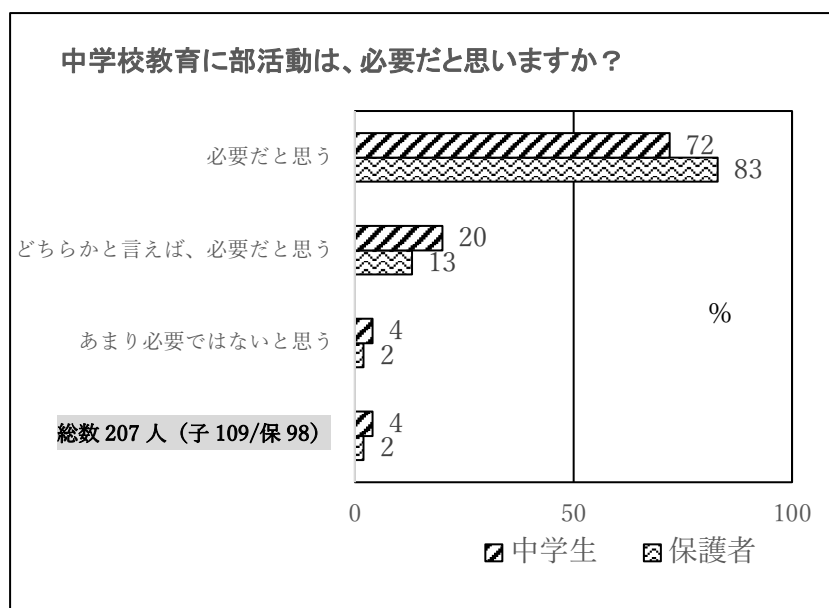
対象についての質問です。

「勤務校に限って携わりたい」が 61%であり、純粋に勤務校の子どもたちのために、部活動に携わりたいという考えが伺われます。

「他校や自校を含めた活動でもかまわない」という 39%の教職員は、問 3 と同様に、転任した教職員が、前任校の生徒も含めて指導してもとよいという、教職員の部活動に対する前向きな気持ちの表れと考えられます。

5 調査結果の考察（中学生・保護者）

問9 部活動の必要性について



部活動の必要性についての質問です。

「必要だと思う」「どちらかと言えば、必要だと思う」を合わせると、中学生、保護者とも 90%を超え、生徒、保護者とも、その必要性を感じていることが分かります。

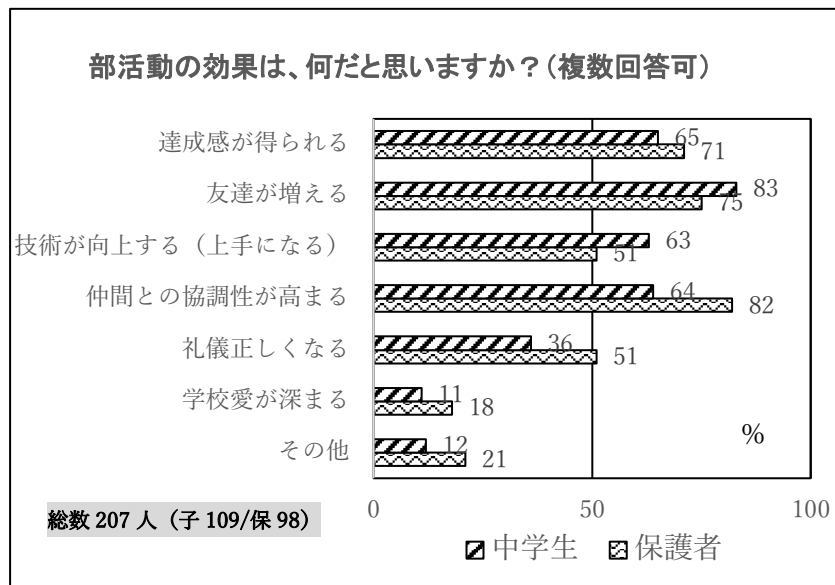
【中学生】

- ・自分の個性が見つかったり、夢中になれたりする。大切な活動だと思う。
- ・他学年、他クラスと交流できる（高め合い）楽しい場所。
- ・つらい事も多いが、その中で楽しい事もあり、困難をチームで乗り越える経験が特別なものだと思う。
- ・友達が増えるところが良いところだと思う。体育大会の部活動対抗リレーも毎年盛り上がるので、あった方がいいと思う。
- ・部活があることで日々の生活が良くなる。運動ができたり、コミュニケーションが取れたりするから。先輩と仲良くし、達成感を感じることができる。知識が増える。あいさつなどが、当たり前になることがいい。
- ・大変なこともあるが、他学年と交流ができ、自分の好きなことや得意なことを見つけるきっかけにもなると思う。
- ・部活動がなくなると、体育の授業以外での運動が少なくなるし、友達もクラス内だけになってしまうので、なくさないで欲しいと思う。
- ・時間をうまく使うため、友達との関わり方を学ぶためにも部活は必要だと思う。
- ・正直、必要がないし、何に活かすかが分からない。

【保護者】

- ・先生に負担がかからない程度に部活動を続けて欲しいです。勉強以外にもチームで活動することで得られることは多いと思うし、精神が鍛えられ成長できると思う。
- ・部活動は、学校生活の中で社会性を学ぶ機会だと思っています。授業は、ほぼ一方向ですが、部活は主体性や他者との関係性など多方向からの学びが多く得られると感じます。
- ・身体を動かす機会や何かに夢中になれるものがあるというのは、自信にも繋がると思うので、部活動は必要だと思います。
- ・中学生にとって、中学校生活の中で部活動は、必要不可欠だと思います。できれば、学校の教職員の方が生徒とのつながりも深く良いですが、負担が大きいので、外部の部活指導員でも良いのでつなげて行って欲しいです。
- ・必要だと思います。学校生活だけでは経験できない事がたくさんあります。勝ち負けや順位付けなどを争う事が今は少ないです。部活動は、勝ち負けにこだわって厳しくなる部分もありますが、心・技・体すべてにおいて成長できます。先生方の負担が大きいのも分かりますが、「部活動」は、学校の先生＋外部コーチが理想的だと思います。
- ・異年齢の交流を図ることで、高校に行ってもいい経験になると思う。
「やりたい」「頑張りたい」を伸ばす目的においても部活は必要。
- ・クラブチームとは違い、学校（同じ）の仲間と分かち合える喜びがあり、教室以外での活躍や違う一面を見ることができ、先生、生徒にとってもいいことではないかと思う。
- ・中学校の部活動は、子どもたちにとってメリットが多いと実感しているので、現状に近い形（授業後に活動）で継続して欲しいです。
- ・教職員の働き方改革は必要だと思いますが、部活動で得られるものも多いです。両立できる方法を模索していただきたいと思います。
- ・部活動があることにより、下校後の時間を健全に過ごせている生徒は多いと思います。
- ・小学校にはない多くの部活を選ぶとか体験できること。高校の前に体験できることも大切。先生や他学年との関わりは、すごく大切なこと。結果よりも関わった時間が大切。
- ・我が子は、人と話すことが苦手で、クラスで友達ができなかったが、部活のおかげで、友達ができ試合では応援し、休日は一緒に遊びに行くなど、仲を深めることができた。

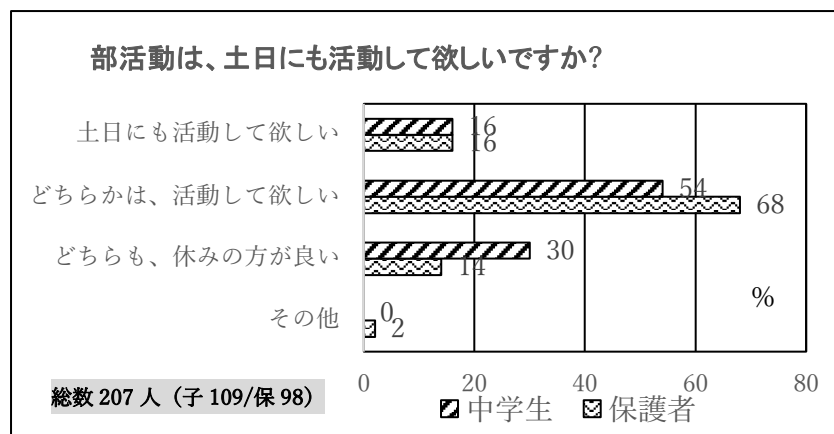
問 10 部活動の効果について



部活動の効果についての質問です。

「達成感が得られる」、「友達が増える」、「技術が向上する」、「仲間との協調性が高まる」などが、主な効果と考えていることが分かります。

問 11 土日の活動について

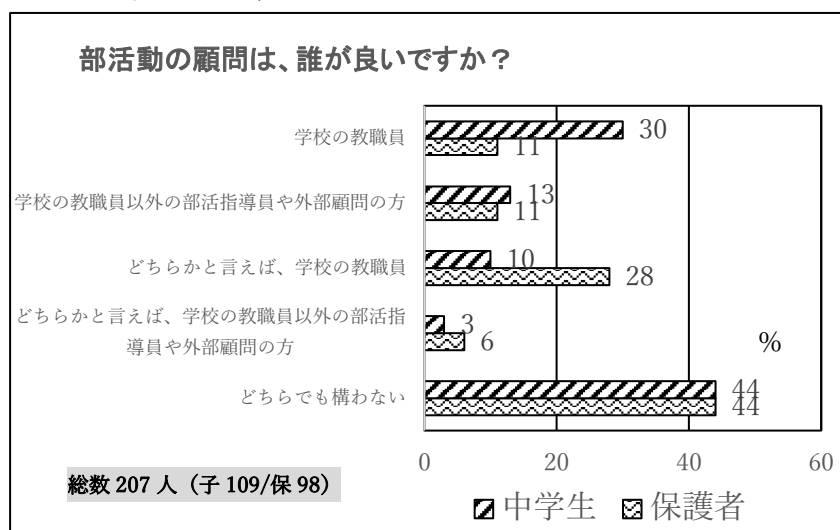


土日の活動についての質問です。

生徒、保護者とも「土日のどちらかは活動して欲しい」と考えています。

また、中学生は、「どちらも休みの方がいい」という生徒も 30%いることが分かります。

問 12 部活動の顧問について



顧問についての質問です。

生徒、保護者の 44%が、「どちらでも構わない」という回答です。

「学校の教職員が良い」「どちらかと言えば、学校の教職員」を合わせると、中学生、保護者とも約 40%になることが分かります。

問 13 部活動について（自由記述）

【中学生】

- ・部活動は必須ではなく、必要な子はいるので、その活動でサポートする体制を考えていくことがあれば良いと思います。
- ・文化部が少ないから増やして欲しい（茶道や演劇）。
- ・練習量を増やして欲しい。
- ・部活の活動時間は、授業後の直後がいい。部活の顧問は、学校の先生だと三者懇談の時などは部活に来てくれない場合が多いから、外部指導員や外部顧問で教えてもらえる方が、部活に専念できてうれしい。
- ・私は、バレーボール部に所属していました。部活では、礼儀正しさや仲間の大切さなどを学び、本当に入って良かったと思いました。部活動というものを続けていって欲しい。
- ・外のクラブでやるよりも、学校で友達や先生と活動したい。

【保護者】

- ・先生方の業務が増えることを考えると、顧問をお願いしづらいですが、先生と授業以外で交わりができるメリットを考えると、学校の先生がいいと思います。外部講師へ委託となると、習い事と同じになると思います。
- ・部活動が先生方の負担になっていることが理解できるので、一般企業同様に残業代や休日出勤手当（満足いく金額）の支給があれば、快く顧問を受けてくださる先生も多いのではないのでしょうか。
- ・子どものスポーツや文化活動を行う権利が、経済や地域ごとに差が出るのは良くない。地域の子どものために、教職員（部活動をやりたい人は一定数いる）と地域が力を合わせていくことが大切で、何よりも子どもにとっての視点を大切にしていく必要がある。
- ・中学生という心も身体も成長する時に、3年間通して仲間と共に、何かに取り組む経験は生きていく上で大切だと思う。自身の経験からも実感しています。義務教育として誰もが同じく体験できる機会があることに意義を感じます。外部委託してお金を払ってでも学校主体で運営できることを望みます。親の意識や経済力が関与することなく、子どもの意思により選択できる自由があることも大切だと思います。

6 調査結果に基づく政策提言決議（案）

◆部活動の意義について

中学生、保護者とも、中学校部活動を必要と考えている。

その内容は、クラスという枠組みを超えた交流やチームでの活動経験、運動の機会創出、学問以外の社会性を学ぶ機会、下校後の健全な過ごし方など、その形態ではなく、そこで得られる価値を置いた回答が多く見られる。

反面、必要性を感じないとの意見も若干見受けられた。

形態にとらわれず、放課後の活動機会の確保という視点で、現行部活動で得られる機会の継続を提言する。

◆指導者について

半数以上の教職員は、条件次第では、部活動に関わってもよいと考えている。

環境整備を行い、希望する教職員にも、部活動に関わってもらうことを提言する。

◆指導者を依頼するための環境整備について

当面、市の方針である休日部活動の地域連携については以下の通り、提言する。

① 手当の支給

→財源を確保し、外部指導者、教職員に問わず手当を支給する。

② 活動の形態

→種目は、指導者が希望する種目に依頼する。

→複数顧問は、指導者の選択に任せる。

→活動日は、指導者の選択に任せる。

おわりに

令和 6 年 10 月、議会みらい創造特別委員会より、尾張旭市議会政策立案等の実施に関する基本方針が発表されました。

尾張旭市議会基本条例（平成 30 年条例第 29 号）に基づく政策立案及び政策提言を行う際の基本的な事項を定めたものです。

議会から政策立案や政策提言を行う前例がなかった本市議会にとって、その実効性の道筋をまとめた基本方針を定めたことは、大変有意義なことであり、それに伴い、常任委員会の 2 年任期についても継続審議され、議会のよりよい在り方へを求める取り組みが進められています。

これらの経緯を経て、会派を超えた協議体を立ち上げ、本テーマであります「今後の学校部活動の指導者確保について」政策提言決議を行うために調査 研究を進めてきました。

教育委員会による「学校教職員への調査結果」や、市議会議員による「中学生・保護者への調査結果」を基に、いくつかの政策提言決議をまとめました。

調査結果を基にした政策提言決議のため、その信頼度は高いと考えています。

さらに、将来の展望として、以下の 2 点について継続的な取組を計画しています。

- ① 小学校部活動についても、最適な在り方を検討していく。
- ② 平日の部活動指導についても、環境を整備していく。

本取組が、市議会からの政策立案及び政策提言の第一歩として、尾張旭市議会の発展に貢献できれば幸いです。引き続き、持続可能で幸福度の高い市民生活に寄与すべく、よりよい政策提言を続けて参ります。

【尾張旭市議会 未来の部活検討会】

いとう 伸一（市民クラブ）
大島 もえ（市民クラブ）
片渕 卓三（公明党尾張旭市議団）
櫻井 直樹（市民クラブ）
陣矢 幸司（令和あさひ）